

分野連携企画報告書

行事（企画）名

JSME(日本機械学会)・ISEA(国際スポーツ工学協会) ジョイントシンポジウム

行事URL

1.開催日・会場 2024年9月10日・愛媛大学

3.企画内容

日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門は、ISEA（国際スポーツ工学協会）と、研究・人的交流の両面で連携が深く、同協会の開催する国際会議（ISEA Conference）にも、部門内の関係者が多く参加してきた。国際的でグローバルな研究と人的交流の促進を図るため、SHD部門ならびにBE部門の分野連携企画として、JSME・ISEAのジョイントシンポジウムを日本機械学会年次大会の先端技術フォーラムとして実施した。

4.連携の成果

本ジョイントシンポジウムのために、ISEAのプレジデントであるLloyd Smith教授(Washington State University)を米国から招聘した。SHD部門長ならびにBE部門長による各部門紹介の後に、Lloyd Smith教授にSHD部門から2名、BE部門から1名の研究者を加えた4名の招待講演によるジョイントシンポジウムが開催され、活発なディスカッションが行われた。日本機械学会SHD部門とBE部門ならびにISEAの研究者がスポーツをキーワードにした研究の成果について、ディスカッションする機会を提供することができたのは本連携の成果である。

2.企画部門

スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス（SHD）部門
バイオエンジニアリング（BE）部門

5.今後の課題（苦労した点、課題点、他の企画へのアドバイス等）

- 本シンポジウムの講演者を選定するにあたり、機械学会側ではSHD部門とBE部門の担当者がWGを形成し、将来的な人的ネットワークの形成を図るため、部門で活躍する研究者に講演を依頼した。
- 1講演あたりの時間は質疑込みで30分とした。講演と質疑は英語で行った。シンポジウム全体は2時間10分とした。時間設定などは適切であった。
- ISEA側には、SHD部門運営会議における企画の申請状況やジョイントシンポジウムの準備状況を定期的に情報提供することで共有し、プレジデントであるLloyd Smith教授の招聘を依頼した。
- BE部門とSHD部門で合同開催された部門同好会に、ISEA側から2名の参加があり、和やかな雰囲気での交流が図られた。